

12月議会はじまる 消費税増税に伴う使用料・手数料の条例改正等

12月2日(月)より第4回大垣市議会定例会が始まります。今議会の議案は、補正予算9件、条例15件、財産の取得1件、その他に指定管理者の指定39件等、計69件と請願1件です。主な内容は以下のとおりです。

補正予算

- * 給与減額措置に伴う人件費 4億650万円
- * 子ども・子育て支援新制度システム開発事業費 620万円
- * 指定管理者制度に関する債務負担行為

条例等

* 大垣市私債権管理条例の制定について

市が保有する私債権(市民病院医療費や市営住宅家賃、水道料金等の未納)の適正な管理を推進するため、債

権管理の統一的な手続き等を規定する。

* 大垣市立幼稚園条例等の一部改正について

北幼稚園、北保育園及びかさぎ保育園を統合して北幼稚園(幼稚園部60名、保育園部140名)を設置することに伴い、所要の改正を行う。

* 大垣市営住宅条例の一部改正について

公営住宅法による管理代行制度に基づき市営住宅の管理を岐阜県住宅供給公社に行わせることに伴い、所要の改正を行う。

* 大垣市情報工房条例の一部改正など49条例の改正について

消費税率等の引き上げに伴い使用料・手数料等を改正する。

* 財産の取得について

大垣駅西自転車駐車場の用に供するため、必要な土地及び建物を取得する。4億5080万5千円

* 指定管理者の指定について 39議案

指定管理者制度の指定期間が満了する施設等について、指定管理者を指定する。

* 西美濃さくら苑介護老人保健施設事務組合規約の変更に関する協議について

組合において共同処理する事務に重症心身障害児者等の短期入所を追加するため、所要の改正を行う。

請願

70才から74才である者に係る一部負担金等の軽減特例措置の継続への意見書採択を求める請願

代表請願者 「垣老」の拡充をめざす会代表河村秀一氏

秘密保護法案 強行採決

自・公・みへ 怒り広がる

国民の大多数が反対や慎重審議を求めている秘密保護法案を自民・公明・みんなの党は26日衆議院で強行採決をしました。

何が秘密かも国民に知らせないのが「秘密保護法」。国民に隠し事をして、やりたい放題の政治をしようとしている安倍自民・公明政権。今回の強行採決はまさに民主主義破壊の政治です。

強行採決の翌朝、「安倍さんは何を考えているのかしら」「安倍さんは子どもがいらないから、目先の利益が良ければ後はどうなってもいいと思っているのかしら。」と市民の怒りの声。

秘密保護法案

県弁護士会が反対パレード実施

岐阜市内で弁護士ら約100人参加



11月28日、県弁護士会は「特定秘密保護法案」の廃案を訴えるパレードを行い、「知る権利を守れ」などとシュプレヒコールを上げました。写真は笹田参三弁護士。

十二月議会の日程

| | | | |
|----------|-----------|-------|---------------|
| 十二月議会の日程 | 12月2日(月) | 10:00 | 本会議・提案説明 |
| | 12月9日(月) | 10:00 | 本会議・一般質問 |
| | 12月11日(水) | 10:00 | 子育て支援日本一対策委員会 |
| | | 13:00 | 市民病院に関する委員会 |
| | 12月12日(木) | 10:00 | 建設環境委員会 |
| | | 13:00 | 経済産業委員会 |
| | 12月13日(金) | 10:00 | 文教厚生委員会 |
| | | 13:00 | 企画総務委員会 |
| | 12月16日(月) | 9:30 | 議会運営委員会 |
| | | 10:00 | 本会議 |

「垣老」の拡充をめざす会請願提出 自治会、老人クラブ、保険協会、社保協団体 関係者、279人署名

10月31日に、西濃社保協の構成団体を中心となった「垣老の拡充めざす会」結成会議が開催され、自治会、老人クラブ各会長や笹田トヨ子、野田のりお議員が出席し、社保協構成団体あわせて30人が参加しました。

「年金からの天引きが増えていくばかりで、70歳からの2割負担はつらい。高齢者は早く死ぬと言われていたようだ」といった切実な意見が自治会長さんから出されました。

「垣老の拡充めざす会」では、全国でも数少ない老人医療費助成制度である「垣老」をまもるためにも、国に対して70歳から74歳の医療費一部負担金を現行の1割のまま継続するよう、意見書採択を大垣市議会に求める請願に取り組み、この間、自治会長、老人クラブ会長、また保険医協会の協力を得て医療機関院長に、請願署名を送付し、短期間の運動だったにもかかわらず、129自治会長、94老人クラブ会長、29医療機関院長、27団体関係者の合計279人の署名が集まり、20日に提出されました。

紹介議員は笹田議員と市民ネットワークの野田議員がなり、12月13日（金）10時から始まる文教厚生委員会で審議されます。ご都合のつく方は、是非傍聴を。

（視察報告） 釜石市の防災教育について

釜石市は東日本大震災の津波で死者・行方不明者が10000人を超す被害となるなか、小中学校児童生徒2921人は自分の判断で高台に避難し助かりました。生存率99.8%の「自分の命は自分で守る」釜石市の防災教育について学びました。

津波の時は「てんでんこ」に逃げる

釜石市は平成19年頃から群馬大学の片田教授の協力を得て、防災意識を高めるため、子どもから大人へ、大人から地域全体へ根付かせる取り組みを行なってきました。3・11大震災の時、子どもたちは自分の命は自分でまもり、周りの大人も巻き込んで避難しました。避難3原則 想定を信じるな、どんな時でも最善を尽くす、率先避難者になる、ことを実践しました。

3月11日の地震発生時、小学校にいた子どもは10人程度で、下校途中の子、公園で遊んでいた子、自宅にいた子、海に魚つりに行った子どもとバラバラだったが、みんな自分の判断で、高台に逃げ無事でした。親達も日頃「地震の時はそれぞれ高台に逃げる」と話していたので、子どもの無事を信じて大人も逃げたということです。

防災センターの悲劇

一方、鶴住居地区の住民は、防災センターを避難場所として防災訓練を行なっていましたが、今回の津波では、防災センターに集まってきた多くの人が津波の犠牲になりました。津波の時の避難場所は500m離れた寺や神社の裏山だったが、防災訓練で避難場所に使ったため住宅地に近い防災センターに人々は避難しました。しかしここは大雨や土砂災害の避難には効果はあっても、津波には効果はなく、多くの犠牲者が出ました。釜石市の犠牲者の55%を占めています。

視察旅行 自民クラブらはグリーン車利用

長年視察旅費の中に乗っていないグリーン車料金が含まれていたことが明らかになり、現在グリーン車料金返還請求の裁判が行われています。こうした中で、今年の視察は、グリーン車に乗って出かける自民クラブ等の議員とグリーン車を使わないで出かける議員に別れました。グリーン車を使わなくても全く視察に支障がなく、私はグリーン車に乗りませんでした。グリーン車料金は支給されるので供託する予定です。以下がグリーン車に乗った議員と乗らなかった議員です。

乗った議員：高畑、林、高橋、石川、小川、岩井、岡本、石田、川上、山口、田中、日比野、横山、中田、鈴木、丸山の各議員16人。

乗らなかった議員：野田、岡田、長谷川、富田三、粥川、富田清、笹田の各議員7人。

議会傍聴の呼び掛けをしています

12月9日（月）、特別車両料金の利用に関して一般質問で取り上げ、野田議員が特別車両（グリーン車）の利用に関して、条例改正を求める質問を行います。

裁判の原告団は議会傍聴を呼びかけています。同日午前9時40分に、大垣市役所1階ロビーへ是非お集まりください。



多くの住民が避難して犠牲者が出た
防災センター



我が家の庭も秋色に
黄色に紅葉したユリノキ